

先日、録画番組を整理するために内容を見返していた時、ある芸能人のトークが目にとまった。話の内容の中心ではなかったため詳しくは語られなかったが、その芸能人はあるファンとの出会いをきっかけに手話を学んだらしい。その出会いとはどんなものなのか、少し気になり調べてみた。握手会のイベントでファンから手話で話しかけられ、何も答えられなかったことがきっかけだとあった。今では、自分のライブDVDに日本語字幕をつけるようにもした、とあった。調べた記事を読みながら、温かい心の方だな、とこちらが幸せな気持ちになった。

相手のことを想い、相手とつながろう、と思う時、人はやさしくなるのだと思う。耳の遠くなった祖父に話しかける時は大きな声でゆつくりと正面から話す、悲願成就に向けて努力を重ねる子どもたちに差し入れをする、自分以外の通行人の動きに合わせて通行スピードを変える…。

一方で、自分のことだけを考えている時、人は勝手になるということは周知の事だろう。最近では自分勝手な事件が目につき、つらい気持ちになることも少なくない。もちろん、日々の自分の行動を振り返ってみても、反省することは多々ある。勝手だった

人にやさしくあるとは

行動の背景を見つめると、時間に追われていたり気がせいていたり心にも余裕がなく、相手のことを想い、つながろうと思えていなかった自分が見えてくる。

先の芸能人も、一時期手話を学ぶことに挫折し、学びから離れていたことがあったそうだ。それでも再び学び始めて、現在に至っているという。私もこのコラムに関わる中で、人権について考える機会をたくさんいただいた。その中で、相手のことを想い、やさしくあるようにすることが大切であると改めて思うようになった。同時に、目の前には見えていない存在だけでなく、目の前には見えない存在にも、やさしくありたいと思う。

すべてのファンに感謝の思いを伝えるために今も手話を学ぶ芸能人のように、昨日より今日、今日より明日、誰かのことを想う自分でありたい。

*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

■問い合わせ

人権啓発広報委員会

☎ 880・6569